

第3回「奥会津の森を活かす」(10/24開催) モニター参加者レポート

第3回「奥会津の森を活かす」に参加して

林あゆ美

第1回、第2回と参加し、前知識なしに参加する楽しさを感じています。今回の場所は只見、「ただみ・ブナと川のミュージアム」です。

三人の講師の方が順次お話をされ、最後にモデレーターを交えての対談形式で行われました。

最初は昭和村地域おこし協力隊の押部僚太さん。愛知県出身ながら、祖父の実家が奥会津にあり、じいちゃん子の押部さん、いつかこの地で生活してみたかったそう。いまは昭和村教育委員会に所属し、民具整理作業をされているそうです。

押部さんはいろいろな木や葉っぱ、道具を持ってきてくださり、それぞれの木の特製、ご自身の好きな木の話がされました。やわらかい木は、例えば切った木を縛るのにも用いられるそうで、実際にみせてくれ木のやわらかさに「へえ！」とびっくりしました。木といえば、上に高くそびえる固いもので、やわらかい木が存在していることは知りませんでした。後でそれぞれの木について調べようとメモしてきたものは、どれも聞き取りが悪かったらしく調べきれず。でも、家のまわりのある木、庭のものも何かに使えるものがあるかもと、あらたな視点をいただきました。また、木の呼び名にも地域性があること。地元の方は学名など気にせず、昔からそう呼ばれていたという呼称を大事にしていることは興味を引かれます。好きな木について楽しそうに語る押部さんの話は、聞いているこちらにも楽しさが伝染する力がありました。

次はアイパワーフォレストで働かれている五十嵐健太さんのお話。特殊伐採の様子を写真で見せてくださいました。数メートルの高い木にのぼって裁断する様子は、写真からでも臨場感ばっちり、ドキドキしてしまいます。木を切るという技術を軽んじられ、対価を低く見積もられることもあるそうで、経済ってやつは！とこちらまで悔しくなります。

お願いされる仕事には、個人の方からも先祖が植えた木が大きくなりすぎてどうしようもないので切って欲しいというものがあるそうです。人間のいうならばワガママで木を切ることは、ドキリとしました。かくいうわが家の庭もどんどん大きくなる木があり、これから年をとってこの木をどうしたものかと考えはじめていたからです。

鳥が落としていくのか、桑は常にどこかしこに生えてきます。数頭のカイコを楽しみで飼っていたときは、便利だったのですが、カイコがいなくなると、ぐんぐん育つ桑の木を大きくさせすぎないように、適度に切っていくのは必須です。食い気から庭にタラの木を植えたのですが、それも成長が早く、巨木のタラの木を余所でみたとき、こんなに大きくなっては大変と、これも手を入れるようにしています。木も命。それに気づかされました。

三人目は中野陽介さん。只見町はユネスコエコパークに認定されていますが、その推進係の仕事がされています。専門は森林生態学で、只見の森についてたっぷりの写真と共に説明してくださいました。豪雪地帯である只見は、74,753ha という広大な広さを持ちながら、その94%は山林。豪雪がつくり出す地形は「雪食地形」「モザイク植生」といわれるそうです。只見の山を眺めるのはとても好きなので（山登りの体力はなく……）、雪崩によって作り出される地形というのを教えてもらい、帰りは新しい目をもって山をみることができました。いままで知らなかったことを知り、自分の眼がバージョンアップされる感覚というのは、この「奥会津の周り方」に参加する醍醐味です。

また、只見の古民家は何の木でつくられているのかという調査の話も興味深く、帰りに自分へのお土産として成果報告書を購入しました。「日本有数の豪雪地帯である只見町の積雪に100年以上も耐えてきた丈夫な構造や部材の樹種選択は、自然環境に適応しながら生み出された理にかなった技術である」とあり、おもしろそうです。

最後はお三方を交えたディスカッション。モデレーターの本間宏さんは、白河の通称「まほろん」（福島県文化センター白河館）で学芸課長をされ、ライフミュージアムネットワーク実行委員会の委員でもあります。本間さんを交えて、お三方がそれぞれ質問を交換し、森や木が奥会津の生活にどのように関わってきたかが掘り下げられました。

この奥会津の周り方はオープンディスカッションですから、最後の質疑応答が毎回もりあがります。できたばかりの「経木（きょうぎ）」のサンプルをお持ちになられた方は、杉の有効活用として、最近注目されているサーキュラーエコノミーとしての役割も担うのではと「経木」の可能性について熱く語られました。私も生活クラブをとおして「経木」は愛用しているので、地元の木でそれがつくられたら嬉しいなと期待が膨らむ話でした。

今まで、森林浴は楽しいくらいにしか森を意識してこなかったもので、初めて知る話にとっても興奮しました。森はおもしろい！というのが一番の収穫です。木は生活に活かされているのをあらためて気づかされました。わが家の狭い庭の木々を見る目も変わります。いい形で木の命をつないでいけるよう意識していかなくては。

次回の昭和村もいまから楽しみでなりません。